

2. 専門部会第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会第二次研究協議会での交流内容

小学5年生 What do you want? 「アルファベットをさがそう」



①授業公開の様子

授業者： 玉田 充幸（北広島市立東部小学校 教諭） Creag Hutton（ALT）

本時の目標： ・積極的にアルファベットの大文字を読んだり、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。

- ・アルファベットの文字とその読み方とを一致させ、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・身の回りにアルファベットの大文字で表現されているものがあることに気づく。

本時の展開

時	児童の活動	指導者の活動	活動の種類	準備物
	Warming up			
1	あいさつ	・全員にあいさつ		
2	アルファベットソング	・アルファベットソングを歌うことを告げる 黒板にアルファベットを貼り、子供といっしょに歌う。	T-SS	アルファベットカード
3	ミッシングゲーム			
4	アルファベット クイズ BH SBO KBA KAQJ	"What group?"(どんな仲間?)、" Where can you see these alphabets?" "(このアルファベットはどこで見 ますか?)などと尋ねる。	T-SS S-S	アルファベ ットカード
めあて アルファベットの読み方と文字の形を知ろう！				
	Main Activities			
5	テニスラリー	・テニス ドリルの説明 ALTとデモンストレーションを行 う。	T-SS S-S	
6	一人カルタ NHK GW CD PS JR OK PS	バラバラにしたカードを机の上に 並べさせ、先ほど子どもたちに出 してもらった身の回りのアルファ ベットを言って、そのカードを取 る。	T-SS	アルファベ ットカード
7	アルファベットジェスチ ャーゲーム	グループ体型 カードのアルファベットをグルー プのメンバーで表現し、回りの児 童が答える。	SS-SS	
8	オーダーゲーム	カードをアルファベット順に並ば せ、チェックする。		
	Looking back			
9	本時の学習を振り返る	自分や友だちの頑張りを発表させ る。	S-T	振り返りシ ート
10	終わりのあいさつ		T-SS	

②授業分科会での協議内容

様々な活動やゲームを通して「アルファベットの読み方や形を知る」ことを目標とした授業が行われた。授業者2人の大変息の合った授業で、子ども達が意欲的に活動していることが印象的であった。授業後の反省からは、子ども達の生き生きとした姿や積極的に英語を使おうとする姿勢、授業者とALTのコミュニケーションがよくとれていて、子ども達の様子に合わせて授業が行われていたことが素晴らしいという意見が多数上がった。それに関わって、ALTとの打合せの重要性や、時間的な難しさなども話題に上がった。



③成果と課題

助言者の荒谷先生からは、子ども達が安心して楽しく授業に参加していたこと、授業者とALTの役割分担がしっかりと

できていたこと、活動型の授業で英語に慣れ親しめたことなどを評価いただいた。また、小学校の外国語活動が、中学校英語の、特に入門期において良い影響が出ていることを話していただいた。これからの授業実践に繋げていきたいと思うお話であった。

5 「中華街に行こう」

①授業公開の様子

指導者：羽澤 茜（北広島市立東部中学校 教諭）

本時の目標：①Whereが使用されている文を理解することができる。【知識・理解】
②Whereを用いて、場所を尋ねることができる。【表現】



本時の展開

過程	生徒の活動	教師の活動	言語活動	機	備考
導入 (5分)	曜日、日付、天気の確認をする。	曜日、日付、天気の確認をする。 PPでお題を提示する。 ①「あなたのおうちはどこですか？」 ②「このネコはどこに住んでいるの？」		PP	学習内容に興味を持たせる。
展開 (35分)	<p>目標を記録用紙に記入する。</p> <p>ロケットグループを作る。 代表者はWBを取りに行く。</p> <p>相談・記入を行う。(5分) 文を作るルール ・Whereを入れる</p> <p>発表のルール ・全員で作成した文を読む</p> <p>間違いに気付き、直す。</p> <p>口頭練習をする</p> <p>ペアで練習をする</p> <p>教室内を自由に歩き、質問をする。</p>	<p>Today's goal: Where を使った表現を理解しよう！</p> <p>・Where が疑問詞であること以外教えない。 ①、②どちらとも考える。</p> <p>ロケットグループ(3~4人班)を作るように指示、班の代表1名にWB等を取りに来させる。</p> <p>相談・記入の間は机間指導を行う。(5分間) 注意事項を書いたPPをうつしておく。</p> <p>①Where is your house? ②Where does this cat live?</p> <p>全体で主語、動詞(be 動詞・一般動詞)の確認をする。 考え直す時間をとる(1分間)</p> <p>Whereの説明 ・場所に使う ・疑問詞+疑問文の形</p> <p>口頭練習をさせる →答え方を練習させる</p> <p>ワークシート配布</p> <p>ペアで質問の仕方・答え方を練習させる。 →ワークシートを参考にお互い質問をし合う。(3分間) 全体確認したのちに、インフォメーションギャップを行う(5分間)</p>	<p>班内で意見を述べ合う。</p> <p>発表をする</p> <p>答え方を練習する</p> <p>質問をする 質問に回答する</p>	<p>WB</p> <p>タイマー</p> <p>PP</p> <p>タイマー</p> <p>PP</p> <p>PCでワードを表示する</p>	<p>教科書・ワークはしませる。</p> <p>be 動詞と一般動詞の違いを説明する</p> <p>前置詞の復習</p>
まとめ (10分)	<p>ワークシートをやる。 問題に取り組む</p> <p>記録用紙の記入</p>	<p>ワークシートに取り組みさせる。</p> <p>回収をする。</p> <p>次回はWhereを使った口頭練習と表現の練習を行う</p>	プリントを解く		時間があったら教科書本文を聞く

②授業分科会での協議内容

ホワイトボードを使っでのグループ発表や、PPで課題を説明・提示するなどICTを上手に活用した授業であった。また、学習規律が日頃から徹底されており、グループの発表終わりには必ず「礼、拍手」をするなど温かい雰囲気を感じられた。一方、ICTのみに頼らずホワイトボードや人形など多様な教具を授業に盛り込み、生徒の興味を引くよう工夫されていた。文法用語が多く授業内で使用されていたが、普段からそれらを教えたり、教科書に線を引かせたりと、文の構造を理解させるように意識されているとのことであった。個人差を考え、グループで考える時間を多くとるなど生徒の実態に応じた配慮も多かった。授業の振り返りに反省用紙を活用し、毎回授業後にチェック、返却することで生徒のやる気を引き出すしかけとしていた。

③成果と課題

今回は反省の方法として、小グループ内でKJ法を行った。良い点、改善点、質問を3色の付箋に分けて書き交流をすることで、活発な授業反省となった。

助言者の岩田先生からは、授業を組み立てていく上で大切なこと、個・ペア・グループなどの学習形態の場面

に応じた適切な使用、1時間の記録としての板書の仕方、効果的な導入や振り返りの方法などについて助言をいただき、自分達の実践を振り返る良い機会となった。

中学校3年生 単元 ONE WORLD English Course 3 Unit 2 Lesson5 「Today's news」

①授業公開の様子

授業者：大道 美和子（北広島市立広葉中学校 教諭）Christopher Samuel Roughton (ALT)

本時の目標：①積極的に英語を使って対話しようとしている。（関心・意欲・態度）

②関係代名詞whoを用いて話したり書いたりすることができる。（表現）

本時の展開

段階	学習活動	教師の支援	留意点
導入	あいさつ 文法事項の口頭導入 対話を聞き、内容を類推させる。 課題把握	あいさつ T1,T2:オーラルイントロダクションを行う。 T1,T2:内容を確認する。	
10分	関係代名詞を用いて人物を紹介してみよう。		
展開	文法事項の理解の確認 長い主語をつくる関係代名詞 who (主格)を理解する。 文法事項の口頭練習 教師の後について口頭練習をする。 アクティビティを用いた練習 ワークシートの絵について、長い主語を作る関係代名詞を用いてお互いに情報を交換する。(評価①、評価②) 解答する。	T1:導入で用いた文法事項を提示し、説明する。 T2:基本文を発音する。 T1,2:ワークシートを配り、活動の手順を説明する。表現を広げたり、正したりする支援を行う。 T1,2:解答する。	机間支援をする。
20分			
整理 20分	まとめ ワークシートの絵について、関係代名詞を用いて人物を紹介する英文を作る。(評価②) 発表者は黒板に英文を書く。 教師の後について黒板に書かれた英文を音読する。 次時の予告	T1,2:表現を広げたり、正したりする支援を行う。 T1:作成した英文を発表させる。 T2:黒板に書かれた英文を音読する。 次時の予告	



②授業分科会での協議内容

学級の雰囲気がとても良く、安心感のある学級づくりが普段から行われているのが感じられる授業であった。本時の展開としては、主格whoの教科書の基本文は、生徒にとってとっつきにくい場面もあるが、生徒になじみ深い先生方の写真を用いて導入を行うことでインパクトもあり、使用場面を想像できるとも良い導入であった。また、ターゲットセンテンスを絞り、さらに4技能を繰り返し使って定着を図ることで、多くの生徒が目標を達成することができていた。これらは大道先生とALT・ロートン先生の役割分担・連携が良いことの成果でもあると考えられる。

③成果と課題

今回

の授業反省は少人数でグループを作り、良かった点・改善点・質問の3つに分けて付箋にメモをし、話し合うという方法で行った。初めての試みであったが、少ない人数で話し合うことで活発に意見が出ていたように感じられた。

助言者の木村先生からは①「授業の成否は、目標達成のための手立てがとれていたか」、②「ノート指導とワークシートの取り扱いについて」、③「指導と評価の一体化」という3点についてお話いただいた。



